

ご意見集計結果まとめ

No	資料	ページ	項目	内容	回答
1	1-2	P.6	44.45 通 iii いきいきトレーニング（単一型）（通所C） 通 iv いきいきトレーニング（機能強化型）（通所C・訪問C）	「2名に対して新たな手法を用いた短期集中予防サービスの施行実施を行った」とありますが、新たな手法とは具体的にどのようなものでしょうか？ 指定要件の緩和や運用面について検討をしていくとのことですが、利用者が確保できる道筋がなければ指定要件を緩和しても受託する事業者は増えないと思います。そもそも短期集中予防サービスが活発な市町村はあるのでしょうか？もしあるのであれば参考にして取り組むことができますが、調べた限りどこの市町村も取り組んではいるものの、あまり活発な地域はないように感じています。「より効果的な手法」を考えるのであれば、短期集中予防サービスを經由してから次のステップに進むなどの仕組みが必要ではないでしょうか。	短期集中予防サービスが活発な市町村ということですが、厚生労働省や国際長寿センター等で先進自治体として紹介されているのが山口県防府市です。 昨年度行った新たな手法は、防府市よりも人口規模等の近い八王子市をモデルとして実施しました。八王子市も防府市と同様に「リエイブルメント」を基本理念に、面談を中心としたマシンを使わない短期集中予防サービスを実施しております。昨年度2名に対しても、松戸リハビリテーション連絡会のご協力の下、リハビリ専門職による面談を週1回3か月、計12回行いました。（結果として、参加者の主観的健康観や抑うつ、歩行速度等の改善がみられました） 委員ご指摘の通り、「より効果的な手法」として、軽度者の介護予防のしくみとして短期集中予防サービスをどのように組み込むかを検討していかなければならないと感じております。防府市や八王子市などの先行自治体を参考に、当市に合った手法を検討してまいります。
2	1-2	P.13	96 ②介護支援専門員（ケアマネージャー）の育成	現状ではケアマネの高齢化により自然減少が年々進んでいくことを防ぐことは難しいと考えます。「ケアマネ難民」を出さないためにも早急に以下の対策が必要と考えます。 ①高齢ケアマネの引退を少しでも延伸できるようなフォロー体制 ②隣接する市町村で勤務するケアマネが松戸市で働きたいと思うような独自施策 ③介護支援専門員資格を持っているが実務についていない人の発掘 ④ケアマネを目指す人を増やすためのPR活動 松戸市と関係団体が連携して取り組んで行くことはとても重要です。対応について協議する機会を設けて頂けるようよろしくお願い致します。	先に実施した介護従事者調査（介護支援専門員調査）では、「ケアマネジメント業務を行う上での課題」や、「ケアマネジメント業務の中での負担」、「働きがい」等について現状を把握したところです。 国の基本指針において介護支援専門員の確保に取り組む必要性が明記されたこと等も注視しながら、引き続き関係機関と連携し、対応の在り方を模索して参ります。

ご意見集計結果まとめ

No	資料	ページ	項目	内容	回答
3	2-1	P.24	3 介護サービスの適正な供給	<p>家族による介護 特にヤングケアラーの実態やこれに対する考え方等はお聞き出来ますか。</p>	<p>ヤングケアラーの実態については、子ども部こども家庭センターにおいて県の調査を基にした傾向分析や、ヤングケアラーであることが疑われる児童の把握及び支援を行っており、潜在化しているケースが一定数あると認識しております。高齢者等への総合相談支援の際、家族介護支援の視点を持った対応に努め、必要に応じて同センターや関係機関との連携を図っております。また、高齢者等への支援者に対しては、ヤングケアラーを含む幅広い世代の介護者の支援に関する知識や理解を深められるよう、情報提供もあわせて実施しております。</p> <p>さらに、介護者のつどいや地域とつながることのできる機会の提供、家族介護講座の開催を通し、介護者の負担軽減を図っております。</p> <p>今後も、様々な場面を通じて家族介護者支援を充実させてまいります。</p>
4			所感	<p>資料はよく調査されて民生委員さん、介護士さんの努力もよくわかりますが、ご近所にはかなり以前から手を借りなければご自分の事が出来ない方がいます。いつもご主人が買い物をしているので出来る事をお手伝いさせていただきますとお伝え致しましたが、ご本人が他を拒絶するため頼めない、確かに買い物、話し相手とは言っても家に入るとなると互いに抵抗があり支え合いですが、ご近所ゆえ簡単でもありまた難しい。そして、エイジレスライフ等近頃言われるが、高齢化社会における生き方年齢にとられず、自らの責任で自由に生き生きとした生活を送ることは理想だが、高齢になる前から準備をしておけばと反省しきりです。今や多世代が支え合って地域で活動を行っていかねばならないが、現実的には年齢差がじゃまする事もあり少々大変。</p>	<p>ありがとうございます。今後の施策の検討にあたり参考とさせていただきます。</p>